第 63 回日本リハビリテーション医学会学術集会

ランチョンセミナー 9（LS09）

Maruishi Pharmaceutical Co., Ltd.
信 頼 と 合 意

座 長

緒方 徹 先生

東京大学大学院医学系研究科
リハビリテーション医学分野
教授

演 者

河野 博隆 先生

帝京大学医学部 整形外科学講座
主任教授
公益社団法人日本整形外科学会
理事長

がん時代における リハビリテーション医学の使命

―がん ロコモと Onco-orthopaedics を考える―

▶日 時

2026 年 6 月 5 日（金）
12:00~13:00

▶会 場

第 10 会場
福岡国際会議場
5F「502+503」
〒812-0032 福岡県福岡市博多区石城町 2－1

日本リハビリテーション医学会 創立1963

ランチョンセミナー事前予約について
[事前予約受付期間]
4 月 9 日（木）正午～4 月 30 日（木）正午
[注意事項]
※整理券はセミナー開始時間に無効となります。
※事前予約申込で残数があるセミナーのみ、整理券の当日配布がございます。
当日配布がある場合は、第 63 回日本リハビリテーション医学会学術集会ホームページにてご案内いたします。
※ランチョンセミナー整理券と単位受講申込は同一ではありません。
単位受講申込をされていても、ランチョンセミナー整理券をお持ちでなければお弁当をお渡しできませんのでご注意ください。

【認 定 単 位】

■ 日本リハビリテーション医学会 教育研修講演単位
受　講　料　　：リハビリテーション科専門医 1 講演 1 単位 1,000 円／認定臨床医 1 講演 10 単位 1,000 円
■ 日本整形外科学会 教育研修講演単位
受　講　料　　：1 講演 1 単位 1,000 円
専門医受講必須分野：[13] リハビリテーション（理学療法、義肢装具を含む）
認　定　単　位　　：運動器リハビリテーション医継続のための単位（Re）

共催：第 63 回日本リハビリテーション医学会学術集会／丸石製薬株式会社

Maruishi Pharmaceutical Co., Ltd.
信 頼 と 合 意

がん時代におけるリハビリテーション医学の使命
―がんロコモと Onco-orthopaedics を考える―

我が国は超高齢社会であると同時に、年間新規罹患数が 100 万人を超える「がん大国」となった。がん治療の進歩により生命予後は改善し、がんは今や「治す病」であると同時に「共に生きる慢性疾患」へとその概念を変えつつある。しかし医療体制は依然として「がんの根治」を中心に構築され、がん患者の生活機能、とりわけ移動機能への関心は十分とは言えない。2018 年、「がんが影響し移動能力に障害が生じる状態」として「がんロコモ」が提唱された。がんロコモは、骨転移などがん自体による運動器の問題、化学療法やホルモン療法、長期臥床による筋力低下や骨量減少などがん治療に伴う運動器の問題、変形性関節症や骨粗鬆症などのがんと併存する運動器の問題、の三つに分類される。実態調査では、がん患者は一般住民と比較してロコモ有病率が高く、若年層においても移動機能低下が認められ、QOL 低下と関連することが示されている。がん診療において重要な指標であるパフォーマンスステータス（PS）は、治療適応を左右する。しかし高齢がん患者では、運動器障害による ADL 制限が「見かけ上の PS 低下」を招き、本来受けられるはずのがん治療の機会を失っている可能性がある。PS はがんそのものによる全身状態を評価する指標であり、可逆的な運動器障害は本来除外されるべきである。ここに、リハビリテーション医療と運動器診療が果たすべき重要な役割がある。さらに終末期医療においても、QOL のみならず Quality of Death/Dying (QOD) が問われる時代となった。骨転移による病的骨折や疼痛のために動けなくなることは、自宅で家族と過ごす最期の時間を奪うことにつながる。短期間であっても支持性を確保し「動ける」状態を取り戻すことの意義は極めて大きい。循環器領域で Onco-cardiology が確立されたように、がん患者の運動器問題に体系的に対応する概念として Onco-orthopaedics の発想が求められている。その中心課題が、がんロコモである。リハビリテーション医学は、骨折リスク評価、運動負荷設定、サルコペニア対策、疼痛管理、多職種連携を通じて、がん患者の生活機能を戦略的に支える中核的領域である。がん診療に求められるのは「がんを治す」ことだけではない。患者が治療を継続し、就労し、社会参加し、そして最期まで「動ける」状態を守り、自分らしく生きることを支えることである。本講演では、がんロコモの概念と実態を整理し、がん時代におけるリハビリテーション医学の新たな使命を提示したい。

帝京大学 医学部 整形外科学講座
河野 博隆